

保育園自己評価表

保育園は常に質の高い保育が求められているが、保育者は未来の子どもの成長を促す役割や責任がある。そのためにも、保育者自身の人間性や専門性の向上を図ることは不可欠になる。自己評価を通して、保育の専門性を見つめる機会、そして評価とし次につなげる課題とする。

評価・次の基準によって評価欄に○・△・×と記入する	
○	十分理解している(十分出来ている)
△	理解している(できている)
×	努力が必要である。

1) 保育の理念-目標・計画・評価

内容	評価
保育者保育指針と保育理念・目標の関係を理解し、保育過程を立てている。	○
保育過程に基づいた具体的な指導計画を作成している。	○
多様な保育需要に対して、地域や保育所の特性を考慮した柔軟な計画作成している。	○
各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢に合った指導計画であり個々の発達にも留意したものを作成している。	○
保育士は、自らの保育実践を振り返り評価し、専門性の向上や改善に努めている。	○

2) 保育内要

内容	評価
子どもの発達過程やその連続性を踏まえ、保育や生活の中で「ねらい」や「内容」が達成されるよう、必要な事項に配慮して保育を行っている。	○
評価結果をもとに、保育の改善に努めている。	○
子どもの気持ちを理解して信頼関係を築いている。	○
子どもたちが日々過ごすための安全な環境や適切な衛生状態に努めている。	○
身体的、精神的、情緒的発育や家庭環境及び食事習慣等、総合的に多面的に子どもの状態を把握している。	○
食育の計画を作成して、日々の保育の中で子どもの「食を営む」の育成に向け、その基礎を培わなければならないことを理解している。	○
行事の種類や実施回数は適切に行われている。	○
行事のねらいを計画や実施に充分生かしている	○
行事の計画・実施・評価・改善(PDCA)の体制をとっている。	○

3) 保育園の組織・役割分担

内容	評価
豊かな集団の育成を目指したクラス経営が進められ、各クラスの連携が円滑に行われている。	○
保育に関わる様々な知識や技能の向上に努め、悩みや疑問を解決するため、研修に参加したり専門書を読むなどして自己研鑽を積んでいる。	○
全職員は、施設内外の環境維持向上に努め、安全対策の共通理解や体制づくりに努めている。	○
職員間で常に報告・連絡・相談の体制が機能している。	○
火災・地震・不審者侵入・交通安全指導等の危機管理に努めている。	○

4) 家庭地域社会

内容	評価
家庭との連携を図るように努めている。	○
関係機関と連携を図り、有効な対応に努めている。	○
地域や保護者の意見を施設運営に反映している。	○

5) 務管理・運用

内容	評価
個人記録簿は、適切に記載し整理保管している。	○
職員に、園内で知り得た事柄に対しての守秘義務を周知徹底している。	○
各種会計を適正かつ適切に処理している。	○

6) 情報発信

内容	評価
「保育園だより(クラスだより・食育だより・保健だより)」、「ホームページ」「コミュナビ」等で施設の情報を発信している。	○

総合所見:

コロナ禍が明け感染症分類の変更から徐々に社会活動が始まり、新型コロナだけでなく他感染症への免疫がない子ども達の健康観察にコロナ禍より一層重点に置いた一年であった。生活様式の変容が子ども達の心や体にどのように影響してきたか、保護者にどのように影響したかコロナ禍前とは同じようではない保育が求められている。行事計画の見直しからコロナ禍で見えたゆとりをもって子ども達に寄り添う保育を目指し本来の子ども達主体の保育へ移行していけるような行事内容へ試行錯誤した。夏祭りは保護者会主催から子ども達主体の夏まつりへ切り替えそのまま継続していく事を保護者会へも伝えると保護者会も納得して頂けた。子ども達が生き生きとした生活、活動をみてもらう事で保護者も安心してくれたようだった。

オンデマンド研修が増えた事で多くの職員が研修へ参加でき、園内研修では保育所保育指針の読み合わせを取り入れ専門性を高めた年だと思ふ。「子どもにとってどうか」という視点から保育所保育指針に基づいた保育を引き続き職員一同心がけていく。

今後の園の取り組みとして地域の根ざした保育園、開かれた保育園として地域の方とのつながりを大切にしていきたい。